

モノづくりのDNAを次代へ



日本工業大学工業技術博物館館長
清水伸二氏

「工業技術博物館」には、日本の近代化を支えた270台を超える工作機械が、当時の息吹を残したまま収蔵されている。特筆すべきは、その約7割が今なお稼働する「動態保存」の状態にあることだ。100年前の鼓動を現代に伝えるのは、一つひとつの精密な部品に宿る職人の「魂」にほかならない。現在、募集を始めている「モノづくり部品大賞」の審査アドバイザーも務める同博物館館長、清水伸二氏への問いを通じ、歴史の断層から現代の技術革新へとつながる血脈をたどる。次代の革新を生む部品の無限の可能性を読み解く。

埼玉県宮代町、日本工業大学一。そのキャンパスの一角にある「工業技術博物館」には、日本の近代化を支えた270台を超える工作機械が、当時の息吹を残したまま収蔵されている。特筆すべきは、その約7割が今なお稼働する「動態保存」の状態にあることだ。100年前の鼓動を現代に伝えるのは、一つひとつの精密な部品に宿る職人の「魂」にほかならない。現在、募集を始めている「モノづくり部品大賞」の審査アドバイザーも務める同博物館館長、清水伸二氏への問いを通じ、歴史の断層から現代の技術革新へとつながる血脈をたどる。次代の革新を生む部品の無限の可能性を読み解く。

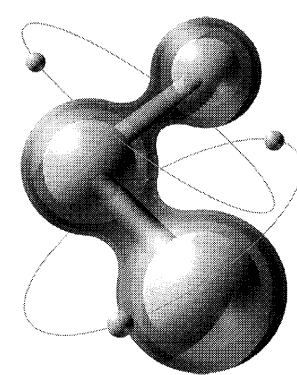
「工業技術博物館」工作機械を「動態保存」



博物館の扉を開けると、そこには現代の清潔な工場とは一線を画す重厚な空間が広がる。高い天井にラインシャフトが走り、そこから幾筋もの革ベルトが各機械へと伸び、駆動すれば、響き渡る規則正しいブリーの回転音とわずかな金属の摩擦音。19世紀から20世紀初頭にかけての工作機械がひしめく工業技術博物館の館内

機械が動く「理屈」五感で理解

博物館の扉を開けると、そこには現代の清潔な工場とは一線を画す重厚な空間が広がる。高い天井にラインシャフトが走り、そこから幾筋もの革ベルトが各機械へと伸び、駆動すれば、響き渡る規則正しいブリーの回転音とわずかな金属の摩擦音。19世紀から20世紀初頭にかけての工作機械がひしめく工業技術博物館の館内



モノづくり日本会議
モノづくりへの挑戦

工業技術博物館とは

日本工業大学内にあり、日本の近代化を支えた工作機械を動態保存する貴重な施設だ。収蔵される約270台の工作機械のうち、約7割が今なお稼働可能な状態にあり、明治以来の技術の息吹を現代に伝えている。



館内には、ほかにも航空エンジンや灯台レンズなど、さまざまな産業遺産がスラリと顔を並べる。登録有形文化財である1891年英国製の2109号蒸気機関車もあり、3月22日には製造135年目を記念した有火運転が行われ、自力走行する姿を披露した(写真)。新人研修や産学連携の拠点としても活用され、過去の知見を次代の革新へつなぐ生きた教材となっている。

実物を徹底的に観察 革新生む礎に

「持続可能性」「波及性」に置かれる。一時のブームではなく、たとえ100年たっても「理にかなった設計」と評価される技術。また、一つの構成部品を革新することで、一つの機械製品だけでなく、ほかの多くの機械製品にも飛躍的な性能向上をもたらす技術。そんな風に、部品の新たな価値を引き出すことが重要だ。

2026年 超モノづくり部品大賞

「超モノづくり部品大賞」は、完成品の陰に隠れがちな、しかし、それなしでは世界が成り立たない部品にスポットライトを当てたアワードだ。2026年は7月10日まで募集しており、その意義は単なる技術力の顕彰にとどまらず、審査の対象は、機械・ロボットから環境、健康福祉、生活の分野まで多岐にわたる。

6分野 7月10日まで募集

「超モノづくり部品大賞」は、完成品の陰に隠れがちな、しかし、それなしでは世界が成り立たない部品にスポットライトを当てたアワードだ。2026年は7月10日まで募集しており、その意義は単なる技術力の顕彰にとどまらず、審査の対象は、機械・ロボットから環境、健康福祉、生活の分野まで多岐にわたる。

2026年(超)モノづくり部品大賞の対象6分野	
機械・ロボット	機械産業やロボット技術に関連する部品・部材
電気・電子	電気製品や電子機器の機能を支える部品・部材
モビリティ関連	自動車をはじめとする移動手段に関連する部品・部材
環境・資源・エネルギー関連	環境保全、資源活用、エネルギー効率向上に寄与する部品・部材
健康福祉・バイオ・医療機器	医療、バイオテクノロジー、福祉・ヘルスケアに関連する部品・部材
生活・社会課題ソリューション関連	日常生活の向上や現代社会の課題解決に資する部品・部材

第23回 超モノづくり部品大賞

モノづくり日本会議と日刊工業新聞社は、日本のモノづくりの基盤を支える部品・部材を対象にした「モノづくり部品大賞」を実施しています。

日本の産業界には、災害に強い国土の形成や環境・エネルギー問題の解決、さらなる顧客満足度の向上などに向けて、新たなモノづくりが求められています。技術革新や新市場創造には、優れた部品・部材が欠かせません。日本のモノづくりに寄与する卓越した部品・部材を広く募集します。

募集期間 2026年4月1日~7月10日

応募方法 右記URLより応募手続きを行ってください。https://buhin.awardsplatform.com/

表彰対象 機械・ロボット 電気・電子 モビリティ関連 環境・資源・エネルギー関連 健康福祉・バイオ・医療機器 生活・社会課題ソリューション関連

発表 2026年10月、日刊工業新聞と日刊工業新聞電子版、モノづくり部品大賞ホームページなどで発表予定

表彰 優秀部品30件程度に「部品賞」を授与し、副賞を贈呈します。「部品賞」の中で特に優秀と認められたものには「部品大賞」を贈ります。「部品大賞」を受賞した部品は、部品の特徴や開発企業の想いを紹介する映像を制作し、贈賞式などで上映するほか、YouTubeなどで公開します。贈賞式は東京都内で開催します。

お問い合わせ モノづくり日本会議 超モノづくり部品大賞事務局 TEL.03-5644-7608 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 (日刊工業新聞社内) e-mail:buhin@nikkan.tech

https://award.cho-monodzukuri.jp

部品大賞

主催:モノづくり日本会議/日刊工業新聞社 後援:経済産業省/日本商工会議所/日本経済団体連合会



MONO DZUKURI

モノづくり日本会議
モノづくりへの挑戦